

愛知県公立大学法人
平成20年度業務実績に関する評価結果

平成21年9月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

全体評価

- 1 評価結果と判断理由…………… 1
- 2 全体評価に当たって考慮した事項
 - (1) 「自主・自律的な大学運営の実現」…………… 2
 - (2) 「質の高い教育・研究の推進」…………… 2
 - (3) 「地域連携の強化」…………… 3
- 3 評価に当たっての意見、指摘等…………… 4

大項目評価

- 1 業務運営の改善及び効率化に関する項目
 - (1) 評価結果…………… 5
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目(評価)…………… 5
 - イ 遅れている項目(評価)…………… 5
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目…………… 6
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等…………… 6
- 2 財務内容の改善に関する項目
 - (1) 評価結果…………… 7
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目(評価)…………… 7
 - イ 遅れている項目(評価)…………… 7
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目…………… 7
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等…………… 8
- 3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目
 - (1) 評価結果…………… 9
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目(評価)…………… 9
 - イ 遅れている項目(評価)…………… 9
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目…………… 10
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等…………… 10

4	その他業務運営に関する項目	
(1)	評価結果	11
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(評価)	11
イ	遅れている項目(評価)	11
ウ	法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	11
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	11
5	大学の教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	12
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	13
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	14
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	15
(3)	進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	18

参考資料

	愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領	21
	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	
1	県立大学	
(1)	小項目進捗状況	24
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	24
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	27
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	27
2	看護大学	
(1)	小項目進捗状況	29
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	29
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	29
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	30
3	芸術大学	
(1)	小項目進捗状況	32
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	32
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	32
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	33

「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」(後掲)に基づき、次のとおり結果をまとめた。

なお、法人化2年目の評価として、初年度に整備された組織、制度などが、どのように運用され、機能し、成果につながったのかという視点も加え、さらには、前年度評価の中で指摘した事項の改善状況も確認しつつ評価作業を行った。

全体評価

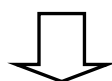
1 評価結果と判断理由

項 目	ラ ン ク				
	S	A	B	C	D
業務運営の改善及び効率化(P5)			○		
財務内容の改善(P7)			○		
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供(P9)			○		
その他業務運営 (P11)		○			

ランク

- S 特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
- A 順調に実施している。(すべて ~)
- B おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
- C 十分に実施できていない。(~ が9割未満)
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

項 目	事業の外形的・客観的な進捗状況
大学の教育研究等の質の向上(P12)	おおむね順調に実施していることを確認



昨年度の評価結果を踏まえ、指摘事項の改善に取り組むとともに、中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向け、

中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

なお、平成21年度に予定されている県立大学と看護大学の統合を始め、各大学への大学院博士後期課程の設置に向け、教職員が共に真摯に取り組み、実現させようとする努力に対し、評価委員会として積極的に評価する。

(参考)平成19年度評価

中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向け、中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

なお、全国的に例のない1法人3大学の形態で法人化した初年度にもかかわらず、愛知県公立大学法人が、県立大学と看護大学の統合による新たな「愛知県立大学」の21年度設置など、数多くの計画項目について真摯に取り組んだことを評価委員会として積極的に評価する。

- 2 全体評価に当たって考慮した事項 < > は中期計画の小項目評価の番号
中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向けた取組を次のとおり確認し、積極的に評価した。

(1) 「自主・自律的な大学運営の実現」

○ 特筆すべき項目(評価)

<228> 情報公開等の推進：県民・地域への積極的な情報発信(P9)

遅れている項目(評価)

<198> 人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築(P6)

<207> 外部研究資金・自己収入：運営費交付金の適正運用、外部資金の積極的獲得(P7)

<227> 評価の充実：評価結果の積極的な公表(P10)

(2) 「質の高い教育・研究の推進」

○ 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

<教育>

<24> 受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】【看護大学】(P15、P27、P30)

<47> 教育職員養成課程における支援カリキュラムの充実、特色のある教員養成への取組

【県立大学】(P13、P24)

<84> 看護学術情報センター(図書館)の開館時間の延長

【看護大学】(P13、P29)

<研究>

<121> 「生涯発達研究施設」の充実、「文字文化研究組織」「多文化共生研究組織」「情報科学共同研究組織」の設置の検討

【県立大学】(P16、P28)

遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

<教育>

- <9> 大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実
【芸術大学】(P15、P33)
- <39> 芸術分野における教養教育のあり方の検討、カリキュラムの見直し
【芸術大学】(P14、P32)
- <45> 大学教育改革プログラムへの応募を通じた教育プログラムと教員の教育能力の向上、応募企画に沿ったプロジェクト型の授業等の企画
【看護大学】(P15、P30)
- <67> 学生の個々の条件に応じた教育方法の工夫、学生に対する教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討
【県立大学】【看護大学】(P16、P27、P30)

<研究>

- <112> 学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価
【3大学共通】(P14、P27、P29、P32)
- <113> 研究成果や取組状況の評価等の教員研究費の配分への反映、外部研究資金獲得者が研究支援を受けられる仕組みと協力体制の構築
【芸術大学】(P14、P32)
- <117> 研究者、研究成果、特許、作品等のデータベースの整備
【看護大学】【芸術大学】(P16、P31、P33)
- <122> 科学研究費補助金等の申請件数の増加、科学研究費補助金等の間接経費分の積極的活用
【県立大学】【看護大学】(P17、P28、P31)

(3)「地域連携の強化」

○ 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

- <132> 多文化共生のための調査研究の推進
【県立大学】(P13、P25)
- <143> 教員養成GP「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」の実施、教育現場との連携によるその成果の他地域や小学校教員への拡大
【県立大学】(P13、P26)

GP : Good Practice (グッド・プラクティス)

文部科学省が、各大学が工夫を凝らした取組みを公募で募集し選定する事業の通称

- <153> 多文化共生、福祉分野におけるNPO等の活動支援・協働の促進
【県立大学】(P13、P26)
- <169> 多文化共生社会づくりを推進する活動の充実
【県立大学】(P14、P27)
- <170> 海外芸術系大学との共同展覧会・共同演奏会等の開催
【芸術大学】(P14、P32)

遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

<148> 病院、保健医療福祉施設、産業界との連携・共同による、新しい医療機器の開発等

【看護大学】（P17、P31）

<155> 芸術、芸術教育を目的とするNPO等各種団体との連携の促進

【芸術大学】（P18、P34）

3 評価に当たっての意見、指摘等

業務実績報告書は、前年と比較して相当簡潔に記載されてはいるものの、なお、いくつかの改善すべき部分も見受けられる。

今後は、抽象的な記述を避け、大学間での表記に統一性をもたせるとともに、計画に対する措置や達成状況などを簡潔・明瞭にわかりやすく記載し、説得力のある判断理由により自己評価を下すことで、県民への説明責任が十分果たせるように努めること。

また、判断材料となる実績はできる限り数値化するとともに、過去と比較できるよう、簡単な表やグラフを用いるなどわかりやすい表現方法を工夫すること。

なお、参考資料や参考データを付す場合は、業務実績報告書と資料・データの双方に計画番号や資料番号等を記入することにより、わかりやすい資料作成にも努めること。

さらには、今後、中期計画の中盤に向け、6年間の計画に対して、スケジュールの進捗及び業務の達成状況がどの程度かを示していく必要があると思われる。

<参考>

中期計画（平成19年度～平成24年度）大項目一覧	中期計画	
	小項目数	うち20年度 年度計画対象 小項目数
第1 大学の教育研究等の質の向上	170	165
第2 業務運営の改善及び効率化	36	31
第3 財務内容の改善	15	15
第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	9	9
第5 その他業務運営	16	16
計	246	236

大項目評価

1 業務運営の改善及び効率化に関する項目

(1) 評価結果

[小項目評価]

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。(すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(~ が9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



					計
ウェイト考慮後の合計	0	2	33	0	35
評価対象項目数		1(1)	30(3)		31(4)
運営体制の改善			11(3)		11(3)
教育研究組織の見直し			3		3
人事の適正化		1(1)	12		13(1)
事務等の効率化及び合理化			4		4

(参考) 19年度評価

「B」おおむね順調に実施している

年度計画を実施していない。

年度計画を十分には実施していない。

年度計画を十分に実施している。

年度計画を上回って実施している。

()内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。

<171> 運営体制の改善：財政基盤の強化

<181> 運営体制の改善：法人固有職員の登用

<182> 運営体制の改善：内部監査体制の整備及び監査室の設置

<198> 人事の適正化：教職員のインセンティブを高めるための人事制度構築

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]

なし

イ 遅れている項目[評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<198> 人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築

[法人自己評価 評価委員会評価]

理由

中期計画では、19年度から、教職員のインセンティブを高めるため、努力と勤務実績に基づく公平な処遇を実現する人事制度を構築することとしているが、一定の進捗は認められるものの、いまだ実現されていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

<171> 運営体制の改善：効率的な予算執行

経済状況が劇的に変化する中においても、大学を法人化させたメリットを生かし予算の弾力的な運用を図るなど、これまで以上に効率的な執行に努めることが望ましい。

<186> 教育研究組織の見直し：第三者評価機関の意見や評価結果を踏まえた教育研究組織の見直し

認証評価機関の評価を受ける予定がない20年度の年度計画に「認証評価機関などによる評価結果や意見を反映して行う。」としており、計画の立て方として適当ではない。

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

[小項目評価]

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。 (~ が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(~ が9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

					計
ウェイト考慮後の合計	0	1	15	0	16
評価対象項目数		1	14(1)		15(1)
外部資金その他の自己収入の増加		1	6(1)		7(1)
経費の抑制			6		6
資産の運用管理の改善			2		2

(参考) 19年度評価
「A」順調に実施している

年度計画を実施していない。
年度計画を十分には実施していない。
年度計画を十分に実施している。
年度計画を上回って実施している。

()内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。
<209> 外部研究資金その他の自己収入の増加：積極的な学生募集による学生納付金の確保

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]

なし

イ 遅れている項目[評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<207> 外部研究資金・自己収入：運営費交付金の適正運用、外部資金の積極的獲得

[法人自己評価 評価委員会評価]

理由

科学研究費補助金等の外部資金の獲得は間接経費によって法人経営を支援するという側面もある。各大学の外部資金の獲得額を前年度実績と比較すると、3大学中2大学が減少しているとともに、3大学の合計額でも同様に減少しているため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

外部資金の状況

(単位：件、千円)

年度	県立大学		芸術大学		看護大学		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
20年度	61	154,109	11	14,166	10	11,960	82	180,235
19年度	56	130,783	8	74,446	9	13,190	73	218,419

(注) 19年度の芸術大学には、音楽芸術研究振興基金の取崩し(63,000千円)が含まれる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

<214> 管理的経費の効率的執行

250万円以上の契約案件は原則として一般競争入札に付すこととしているが、それ以外のものについてもできる限り競争入札による契約を採用し、歳出削減による業務の改善に努力することが望ましい。

3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(~ が9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

(参考) 19年度評価
「A」順調に実施している

[小項目評価]

					計
ウェイト考慮後の合計	0	1	7	2	10
評価対象項目数		1	7	1(1)	9(1)
評価の充実		1	5		6
情報公開等の推進			2	1(1)	3(1)

年度計画を実施していない。

年度計画を十分には実施していない。

年度計画を十分に実施している。

年度計画を上回って実施している。

()内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。
<228> 情報公開等の推進：県民・地域への積極的な情報発信

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]

<228> 情報公開等の推進：県民・地域への積極的な情報発信

【県立大学】

- ・ 「あいち県政ファイル」の放映、新聞社、テレビ局へのキャラバン活動、ポスターの駅貼、新聞の折り込み広告、一般広報誌への掲載などによる多彩な広報活動を展開した。
- ・ 入試案内、公開講座の開催状況等をホームページに掲載し最新の情報が入手できるようにした。

【看護大学】

- ・ ホームページ、大学案内、ポスター・チラシ・リーフレットなど、広報媒体の活用により、関係情報を広く発信した。

【芸術大学】

- ・ 入学案内、教員の研究に関する情報、サテライト講座、展覧会、演奏会、公開講座等の情報をホームページで提供した。

イ 遅れている項目[評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<227> 評価の充実：評価結果の積極的な公表

[法人自己評価 評価委員会評価]

理由

中期計画では、19年度から評価結果をホームページや印刷物により積極的に公表することとしているが、20年度中にはいずれの大学でもホームページで公表しておらず、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

4 その他業務運営に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
「C」十分に実施できていない。(~ が9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

[小項目評価]

					計
ウェイト考慮後の合計	0	0	16	0	16
評価対象項目数			16		16
施設・設備の活用等			3		3
安全管理			8		8
社会的責任			5		5

(参考) 19年度評価
「A」順調に実施している

年度計画を実施していない。
年度計画を十分には実施していない。
年度計画を十分に実施している。
年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目[評価]
なし

イ 遅れている項目[評価]
なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

5 大学の教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

法人全体及び各大学について、いずれも
おおむね順調に実施していることを確認

(参考) 19年度評価

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

おおむね順調に実施していることを確認

* 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	看大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	4	4	2	10	6.1
	県大	2	2	0	4	3.1
	看大	2	4	1	7	7.0
	芸大	3	4	1	8	8.9
年度計画を十分に実施している	総合	94	17	35	146	88.5
	県大	73	17	19	109	85.2
	看大	58	13	17	88	88.0
	芸大	51	10	19	80	88.9
年度計画を上回って実施している	総合	3	1	5	9	5.4
	県大	4	1	10	15	11.7
	看大	5	0	0	5	5.0
	芸大	0	0	2	2	2.2
計	総合	101	22	42	165	100.0
	県大	79	20	29	128	100.0
	看大	65	17	18	100	100.0
	芸大	54	14	22	90	100.0

1つの大学が対応する項目と複数の大学が対応する項目があるため、総合の項目数は各大学の項目数と一致しない。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

<47> 教育:教育職員養成課程における支援カリキュラムの充実、特色のある教員養成への取組

【県立大学】

- ・ 新学科のカリキュラムへ課題に取り組む能力を涵養する科目を置き、充実を図った。

<84> 教育:看護学術情報センター(図書館)の開館時間の延長

【看護大学】

- ・ 利用者の休日開館の要望に応え、21年度から土曜日の貸出業務を実施することとし、21年1月から試行を始めた。

<132> 地域連携:多文化共生のための調査研究の推進

【県立大学】

- ・ 多文化共生研究所が行政(県公園緑地課、長久手町等)やNPO団体等と定期的に意見交換を行い、連携事業を推進した。また、西尾市との間で協定を締結し、共同で「西尾市外国人生活調査」を実施した。

<143> 地域連携:教員養成GP「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」の実施、教育現場との連携によるその成果の他地域や小学校教員への拡大

【県立大学】

- ・ 「教員養成GP」事業の継続を図るため、軽度発達障害児の教育支援のための地域協働に関する総合事業を実施した。
- ・ 県内の市町村教育委員会が実施するスクールボランティアへの学生派遣を行った。
- ・ 県内の市町村教育委員会との協働による「軽度発達障害フォーラム」事業を尾張と三河の2カ所で開催するとともに、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校への巡回相談事業を実施し、教育・保育現場への支援を行った。

<153> 地域連携:多文化共生、福祉分野におけるNPO等の活動支援・協働の促進

【県立大学】

- ・ 多文化共生、福祉分野におけるNPO等の各種団体と連携した事業として、「小中学校・地域と大学との教育連携(シンポジウム)」や「大地の子:日中の架け橋(ワークショップ)」などを実施した。

< 169 > 地域連携：多文化共生社会づくりを推進する活動の充実

【県立大学】

- ・ 学生の自主企画研究の指導活動として、教員と学生による「外国人保護者向け一日日本語講座」を実施した。
- ・ 外国人児童・生徒向けの教材作成や進路意識のアンケート調査を実施したほか、地域の小中学校の国際教室の担当教員との連携活動を開始した。

< 170 > 地域連携：海外芸術系大学との共同展覧会・共同演奏会等の開催

【芸術大学】

- ・ ドイツのデュッセルドルフ美術大学と連携し、「学生交流ドロワーイング展」の計画を前倒して開催した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

< 39 > 教育：芸術分野における教養教育のあり方の検討、カリキュラムの見直し

【芸術大学】

- ・ 教養教育の授業科目の見直しを検討したが、隔年開講科目を毎年開講するには至らず、21年度において引き続き検討することとなった。

< 112 > 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価

【3大学共通】

- ・ 学外評価の実施と学内相互評価のあり方について、結論が得られず引き続き検討することとなった。

< 113 > 研究：研究成果や取組状況の評価等の教員研究費の配分への反映、外部研究資金獲得者が研究支援を受けられる仕組みと協力体制の構築

【芸術大学】

- ・ 教員評価制度専門部会で、教員評価システムの構築とその評価結果の研究費への反映等について、他大学の状況を調査し検討を進めたが、円滑な研究のための体制づくりを含め、引き続き検討することとなった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<9> 教育：大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

21年度から、教職免許等資格取得に関する教育課程を新しい県立大学との教員の相互派遣により充実する計画となっていたが、準備が整わず引き続き検討することになったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<24> 教育：受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

【県立大学】

2,650名の参加を得た「オープンキャンパス」や高校で行った19回の「大学説明会」、20回の「出張講義」を始めとするさまざまな入試広報活動は、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

【看護大学】

シャトルバスを利用した県大ツアーなどにより、オープンキャンパスの参加者が増加したことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

<45> 教育：大学教育改革プログラムへの応募を通じた教育プログラムと教員の教育能力の向上、応募企画に沿ったプロジェクト型の授業等の企画

【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

中期計画では、21年度から文部科学省の大学教育改革支援プログラム（GP）への応募等を通じて教育プログラムと教員の教育能力の向上を図るため、応募企画に沿ったプロジェクト型の授業や学部・学科を横断する授業、縦割り授業（複数学年対象の授業）などを企画することとしているが、GPへの応募につながらず、準備が整わなかったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<67> 教育：学生の個々の条件に応じた教育方法の工夫、学生に対する教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討

【県立大学】【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

両大学とも、21年度から実施予定の学生に対する教育達成度の明示と成績評価分布の公表については具体化されておらず、検討が継続されるため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<117> 研究：研究者、研究成果、特許、作品等のデータベースの整備

【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

ホームページへの教員紹介掲載ではデータベース化とは言い難く、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

ホームページへの教員紹介掲載ではデータベース化とは言い難く、また、企業等ヘシーズ集の情報提供も実施していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<121> 研究：「生涯発達研究施設」の充実、「文字文化財研究組織」「多文化共生研究組織」「情報科学共同研究組織」の設置の検討

【県立大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

「文字文化財研究所」「多文化共生研究所」「情報科学共同研究所」を設置する計画に対し、実際には設置した研究所においてDVDの編集・刊行や共同研究の成果発表まで実施しているため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

< 122 > 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加、科学研究費補助金等の間接経費分の積極的活用

【県立大学】【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、県立大学及び看護大学においては全教員が科学研究費補助金の申請を目指すこととしている。この計画は各教員が積極的に外部資金を獲得するという自助努力の姿勢と、間接経費を法人経営に活用する側面から重要なものである。両大学において前年度に比較して申請率を上昇させた努力は認められるものの、依然として目標を下回っているため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 科研費申請状況 >

申請率	平成 20 年度			平成 19 年度		
	県大	芸大	看護大	県大	芸大	看護大
教員数(人) A	155	83	52	155	83	53
申請数(件) B	67	17	30	60	11	18
継続交付数(件) C	28	0	7	26	1	6
計 B+C	95	17	37	86	12	24
申請者数 D	94	16	37	86	11	24
申請者率(%) D/A	60.6%	19.3%	71.2%	55.5%	13.3%	45.3%
申請率(%) (B+C)/A	61.3%	20.5%	71.2%	55.5%	14.5%	45.3%

教員数には、学長、外国人教員、客員教員を含まない。

申請者数には、研究分担者を含まない。

< 148 > 地域連携：病院、保健医療福祉施設、産業界との連携・共同による、新しい医療機器の開発等

【看護大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、産業との連携を図るため、教員側のシーズの有無について調査するとしているが、20年度においてはシーズ調査の企画にとどまり、調査の実施に至っていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 155 > 地域連携：芸術、芸術教育を目的とするNPO等各種団体との連携の促進

【芸術大学】

[自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画においては、NPOとの連携を図るための窓口をホームページ等で広報することとしているが、実施に至っていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

< 3 > 教育：大学間教員相互派遣による教養教育の選択科目の拡充

【3大学共通】

県立大学、看護大学、芸術大学とそれぞれ明確な専門教育の分野を有する大学にあっても、専門分野の枠を超え、教養教育の充実強化を図っていくことが重要である。キャンパス間の移動手段の確保など、物理的な整備も必要であるが、共通カリキュラムの編成などにより、教養教育の充実と質の向上をより一層図っていくことが望ましい。

< 17 > 教育：アドミッション・ポリシーの明確化・周知

【3大学共通】

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)に従い、一般入試と推薦入試の目的を明確にするとともに、入学後のリメディアル教育を含め、そのあり方をよく議論していくことが望ましい。

リメディアル教育

大学教育を受ける前提となる基礎的な知識などについての教育をいう。補修教育とも呼ばれる。

< 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】

今後は実施した広報活動の手法について、どのような効果があったのか、検証していくことが望ましい。

< 112 > 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価の実施

【3大学共通】

研究成果に対する学外評価のあり方や方法について、多くの大学が検討課題としているところであり、新しい県立大学、芸術大学における今後の検討状況を注視していきたい。

< 117 > 研究：研究者、研究成果、特許、作品等のデータベースの整備

【 3 大学共通】

情報基盤の強化を図る際には、県立大学の情報科学部の協力を得るなど、この項目に限らず各大学・学部を持つノウハウを活用し合うことで、法人全体での水準の均衡と向上に努められたい。

< 129 > 地域連携：行政との定期的な意見交換の実施

【 3 大学共通】

行政機関と定期的な意見交換をした成果を、大学の教育・研究・授業に関連付けていくことが望ましい。

< 143 > 地域連携：教員養成 G P 「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」の実施、教育現場との連携によるその成果の他地域や小学校教員への拡大

【県立大学】

大学として、地域との連携事業に対し積極的に取り組んでいることは高く評価できるが、こういった取組をいかに授業に生かしていけるかが重要である。今後とも地域連携事業と授業の関連付けに配慮されたい。

< 166 > 地域連携：学術交流協定校の拡充、協定校を中心とした海外大学、研究機関との学術交流の推進

【 3 大学共通】

学術交流協定を通しての交流は、基本的に留学生の受け入れ者数と派遣者数のバランスを保ちつつ実施されることが望ましく、今後は協定校からの留学生の受け入れに関しても力を入れるよう配慮されたい。

< 参考資料 >

愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。

中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。

評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。

評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施に当たっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を

記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとに ~ ランクの4段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
	年度計画を上回って実施している。
	年度計画を十分に実施している。
	年度計画を十分には実施していない。
	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべて ~)
B	おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
C	十分に実施できていない。(~ が9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

なお、中期目標の基本的な目標である「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」、「自主・自律的な大学運営の実現」に向けた取組を積極的に評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

評価結果は、法人に通知する。

評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。

評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。

6 評価結果の反映

評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。

評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

1 県立大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	2	2	0	4	3.1
年度計画を十分に実施している	73	17	19	109	85.2
年度計画を上回って実施している	4	1	10	15	11.7
計	79	20	29	128	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

<47> 教育：教育職員養成課程における支援カリキュラムの充実、特色のある教員養成への取組

- ・ 新学科のカリキュラムへ課題に取り組む能力を涵養する科目を置き、充実を図った。

<72> 教育：「学術情報センター」の取組の拡充

- ・ 新たな教養教育プログラムの開発に着手した。
- ・ 利用講習会を通して、論文検索データベースの利用拡大を図った。
- ・ 20年4月に携帯電話による図書検索システムを導入し、「開館カレンダー」や「お知らせ」のページの閲覧を可能とした。
- ・ 看護大学との統合を視野に入れた、次期の図書館システムの導入に向け、具体的な検討を開始した。

<88> 教育：学生による自主的活動の支援

- ・ オープンキャンパス開催時に、学生による各学科の相談コーナーを設けるとともに、看護大学のオープンキャンパス参加者を県立大学へ案内するキャンパスツアーを2回実施した。

<125> 地域連携：「地域連携センター」の機能充実

- ・ 小中学校への学生ボランティア派遣事業の推進のほか、教育連携シンポジウム、環境共生研究会を企画し、愛知県や市町村、NPOなどと20を超える事業に共催協力、支援を行った。

< 132 > 地域連携：多文化共生のための調査研究の推進

- ・ 多文化共生研究所が行政（県公園緑地課、長久手町等）やNPO団体等と定期的な意見交換を行い、連携事業の推進を図った。また、西尾市との間で協定を締結し、「西尾市外国人生活調査」を実施した。

< 137 > 地域連携：愛知学長懇話会による単位互換制度の促進、同懇話会を通じた県内大学との教育・研究・地域連携協力の推進

- ・ 他大学との協力活動を活性化させるため、単位互換開放科目を20年度の21科目から21年度は25科目へと拡大することとした。
- ・ 20年度の文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に応募し、「共同図書環（館）のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」が採択された。

戦略的大学連携支援事業

地域の大学等間の積極的な連携を推進し、各大学等の教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育水準の高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的とする文部科学省実施事業。

< 141 > 地域連携：小・中・高等学校への学習支援、高大連携の推進

- ・ 瀬戸市教育委員会と協定を締結し、スクールボランティア活動を推進した。また、高大連携事業についても、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールへの支援として、模擬授業や出張講義を実施した。

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール

英語教育の先進事例となるような学校づくりを推進するための文部科学省実施事業。
英語教育を重点的に行う高等学校等を指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、大学や小中学校等との効果的な連携方策等についての実践研究を実施する。また、公開フォーラムの開催やホームページによる情報提供を行う。

- ・ オープンキャンパスで全学科の模擬授業を行った。

- < 143 > 地域連携：教員養成 G P 「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」の実施、教育現場との連携によるその成果の他地域や小学校教員への拡大
- ・ 「教員養成 G P」事業の継続を図るため、軽度発達障害児の教育支援のための地域協働に関する総合事業を実施した。
 - ・ 県内の市町村教育委員会が実施するスクールボランティアへの学生派遣を行った。
 - ・ 県内の市町村教育委員会との協働による「軽度発達障害フォーラム」事業を尾張と三河の 2 カ所で開催するとともに、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校への巡回相談事業を実施し、教育・保育現場への支援を行った。
- < 152 > 地域連携：学生のボランティア活動の授業への組み込み、単位化の推進
- ・ 「新・県大ファンファーレ」の諸事業の一環として、スクールボランティアに関するシンポジウムを開催した。
- 新・県大ファンファーレ

20 年 10 月 28 日から 11 月 5 日にかけて、県大祭（大学祭）の時期にあわせて実施された広報事業。県立大学では例年 11 月上旬に大学祭を開催しているが、20 年度については長久手町に移転して 10 周年の節目の年でもあり、看護大学との統合に係る PR も兼ねて例年よりも多くのイベントを開催した。
- ・ 教育発達学科専門科目として小中学校でのボランティア活動を単位化する「サービラーニング A,B,C」を新教育課程に組み入れた。
- < 153 > 地域連携：多文化共生、福祉分野における N P O 等の活動支援・協働の促進
- ・ 多文化共生、福祉分野における N P O 等の各種団体と連携した事業として、「小中学校・地域と大学との教育連携（シンポジウム）」や「大地の子：日中の架け橋（ワークショップ）」などを実施した。
- < 154 > 地域連携：N P O 等各種団体との連携の促進
- ・ 外国人支援 N P O と連携し、実態調査とシンポジウムを実施した。
 - ・ 日本語教員課程の授業科目として、学生が N P O 法人の地域ボランティアに参加した。
 - ・ 授業科目以外の活動として、豊田市の小学校で開催された「ことばの教室」に学生ボランティアを派遣した。

- < 169 > 地域連携：多文化共生社会づくりを推進する活動の充実
- ・ 学生の自主企画研究の指導活動として、教員と学生による「外国人保護者向け一日日本語講座」を実施した。
 - ・ 外国人児童・生徒向けの教材作成や進路意識のアンケート調査を実施したほか、地域の小中学校の国際教室の担当教員との連携活動を開始した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

- < 112 > 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価
- ・ 学外評価の実施と学内相互評価のあり方について、結論が得られず引き続き検討することとなった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

- < 24 > 教育：受験生に対する広報活動の充実

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

2,650名の参加を得た「オープンキャンパス」や高校で行った19回の「大学説明会」、20回の「出張講義」を始めとしてさまざまな入試広報活動は、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

- < 64 > 教育：ディプロマ・ポリシーの明確化・公表

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

中期計画において19年度からディプロマ・ポリシーを公表することとしているが、ホームページへの掲載が21年度となったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

- < 67 > 教育：学生の個々の条件に応じた教育方法の工夫、学生に対する教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

21年度から実施予定の学生に対する教育達成度の明示と成績評価分布の公表については具体化されておらず、検討が継続されるため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

- < 121 > 研究：「生涯発達研究施設」の充実、「文字文化財研究組織」「多文化共生研究組織」「情報科学共同研究組織」の設置の検討

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

「文字文化財研究所」「多文化共生研究所」「情報科学共同研究所」を設置する計画に対し、設置した研究所においてDVDの編集・刊行や共同研究の成果発表まで実施しているため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

- < 122 > 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加、科学研究費補助金等の間接経費分の積極的活用

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、全教員が科学研究費補助金の申請を目指すこととしており、前年度に比較して申請率を上昇させた努力は認められるものの、依然として目標を下回っているため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

- < 130 > 地域連携：県や市町村の審議会や委員会への参加

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

「公共政策研究会」の窓口機能の強化を図るという計画に対し、シンポジウムの開催まで実施したため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

公共政策研究会

実務と学問をつなぎ、県立大学からの公共政策提言を目指すため、公共団体の審議会等の委員に就任している教員や、公共政策にかかわる研究分野の教員から構成された学内研究会。

- < 166 > 地域連携：学術交流協定校の拡充、協定校を中心とした海外大学、研究機関との学術交流の推進

[自己点検「年度計画を上回って実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分に実施している」]

理由

学術交流の推進は、学術交流協定校の増加という量的拡大のみならず、協定校との間でいかに学術の発展に貢献する交流がなされるかが問われるべきであり、実績報告から交流の内容が把握できないため、「年度計画を上回って実施している」とは判断できない。

2 看護大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	2	4	1	7	7.0
年度計画を十分に実施している	58	13	17	88	88.0
年度計画を上回って実施している	5	0	0	5	5.0
計	65	17	18	100	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

<72> 教育：「看護学術情報センター」の取組の拡充

- ・ 研究図書館機能の整備・強化対策として、図書の収集・整備を図るとともに、学術雑誌の計画的な収集に取り組んだ。
- ・ 看護学のデータベースを導入し、その利用方法を学部の3年生と認定看護師教育課程受講者に授業で指導した。
- ・ 県外に向けた学術情報発信の一環として、愛知県看護協会が実施する認定看護師教育課程の講義に講師を派遣した。

<84> 教育：看護学術情報センター（図書館）の開館時間の延長

- ・ 利用者の休日開館の要望に応え、21年度から土曜日の貸出業務を実施することとし、21年1月から試行を始めた。

<89> 教育：学生生活支援体制や大学生生活満足度についての学生アンケートの実施・調査分析

- ・ 学生アンケートの結果を踏まえ、「オフィスアワー制度」を導入した。さらに、通学の利便性・安全性の確保の観点から「スクールバス」の導入を計画し、21年度から運行することとした。

オフィスアワー

教員が学生の質問や相談を受けるため、特定場所で待機する時間、またはその制度。大学は学生に対し、教員名・待機場所・待機時間（オフィスアワー）の一覧表を示す。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

<112> 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価

- ・ 学外評価の実施と学内相互評価のあり方について、結論が得られず引き続き検討することとなった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<24> 教育：受験生に対する広報活動の充実

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

シャトルバスを利用した県大ツアーなどにより、オープンキャンパスへの参加者が増加したことは、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

<45> 教育：大学教育改革プログラムへの応募を通じた教育プログラムと教員の教育能力の向上、応募企画に沿ったプロジェクト型の授業等の企画

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

中期計画では、21年度から文部科学省の大学教育改革支援プログラム（GP）への応募等を通じて教育プログラムと教員の教育能力の向上を図るため、応募企画に沿ったプロジェクト型の授業や学部ないし学科を横断する授業、縦割り授業（複数学年対象の授業）などを企画することとしているが、看護大学においてはGPへの応募につながらず、準備が整わなかったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<67> 教育：学生の個々の条件に応じた教育方法の工夫、学生に対する教育達成度の明示、全体の成績評価分布の公表手法の検討

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

21年度から実施予定の学生に対する教育達成度の明示と成績評価分布の公表については具体化されておらず、検討が継続されるため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<83> 教育：必要な施設・設備の整備や適切な維持

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」]

理由

計画に記載されていなかった統合後のキャンパス間のシャトルバスの運行は、学生の教育学習環境を大いに向上させるものであるため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

< 117 > 研究：研究者、研究成果、特許、作品等のデータベースの整備

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

ホームページへの教員紹介掲載ではデータベース化とは言い難く、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 119 > 研究：自大学における学会開催に対する支援

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、積極的に学会を誘致するとしているが、学会は誘致されていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 122 > 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加、科学研究費補助金等の間接経費分の積極的活用

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、全教員が科学研究費補助金の申請を目指すこととしており、前年度に比較して申請率を大幅に上昇させた努力は大いに評価するが、依然として目標を下回っているため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 148 > 地域連携：病院、保健医療福祉施設、産業界との連携・共同による、新しい医療機器の開発等

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、産業との連携を図るため、教員側のシーズの有無について調査するとしているが、20年度においてはシーズ調査の企画にとどまり、調査の実施に至っていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

3 芸術大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	3	4	1	8	8.9
年度計画を十分に実施している	51	10	19	80	88.9
年度計画を上回って実施している	0	0	2	2	2.2
計	54	14	22	90	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

- <141> 地域連携：小・中・高等学校への学習支援、高大連携の推進
- ・ 超高画質の双方向の映像通信を使用した、新しい形の高大連携の授業を美術学部・音楽学部合同で試行した。
 - ・ 高校生に対し、オープンキャンパスや公開講座への積極的な参加を促し、なかでもオープンキャンパスへの参加者は431名にのぼった。
- <170> 地域連携：海外芸術系大学との共同展覧会・共同演奏会等の開催
- ・ ドイツのデュッセルドルフ美術大学と連携し、「学生交流ドロイング展」の計画を前倒して開催した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

- <39> 教育：芸術分野における教養教育のあり方の検討、カリキュラムの見直し
- ・ 教養教育の授業科目の見直しを検討したが、隔年開講科目を毎年開講するには至らず、21年度において引き続き検討することとなった。
- <112> 研究：学内の相互評価、定期的な学外評価等を含めた研究成果の評価
- ・ 学外評価の実施と学内相互評価のあり方について、結論が得られず引き続き検討することとなった。
- <113> 研究：研究成果や取組状況の評価等の教員研究費の配分への反映、外部研究資金獲得者が研究支援を受けられる仕組みと協力体制の構築
- ・ 教員評価制度専門部会で、教員評価システムの構築とその評価結果の研究費への反映等について、他大学の状況を調査し検討を進めたが、円滑な研究のための体制づくりを含め、引き続き検討することとなった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

<9> 教育：大学間教員相互派遣による教育職員養成課程の充実

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

21年度から、教職免許等資格取得に関する教育課程を新しい県立大学との教員の相互派遣により充実する計画となっていたが、準備が整わず引き続き検討することになったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<26> 教育：教育に関する評価（自己点検・評価、学生評価、外部評価等）の実施、FD講習会の実施、教員間の授業交流の実施

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、実施した自己点検、評価を可能な限り広く一般に公開するとしているが、公開はされず学内での公表にとどまっているため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。ホームページ等で広く一般に公開することが望ましい。

FD：Faculty Development(ファカティ・ディベロップメント)

大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修。

<117> 研究：研究者、研究成果、特許、作品等のデータベースの整備

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

ホームページへの教員紹介掲載ではデータベース化とは言い難く、また、企業等へシーズ集の情報提供も実施していないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

<123> 研究：受託・共同研究の促進、国・企業等からの外部研究資金導入の促進

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では20年度に受託研究、共同研究の案内をホームページに掲載するとしているが、年度内に掲載が実現できなかったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 155 > 地域連携：芸術、芸術教育を目的とするNPO等各種団体との連携の
促進

[自己点検「年度計画を十分に実施している」]

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」]

理由

計画では、NPOとの連携を図るための窓口をホームページ等で広報することとしているが、実施に至っていないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。